

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	特定非営利活動法人 千葉アレルギーネットワーク	
事業名	子どもの防災	
目的・必要性	熊本地震でも小さいお子さんのいる家庭は避難所にいられないなど、災害弱者になることが改めて確認されました。東日本大地震を受け平成23年に行った厚労省のデータですと、子育て世帯の30代、40代の非常用食料の用意が50%程度と市の備蓄品は成人対象としているのに、不十分さを感じます。首都直下型地震がいつ起こるかわからない現在、防災の意識づけが必要です。楽しく親子で学べる講座を行うことにより、不測の事態に適切に対処するためにも行政や民間団体との連携作りをすることを目的とします。	
内容	小学校や幼稚園などを対象に2回講座を開きます。紙芝居や食物アレルギー対応の防災備蓄品を使った簡単クッキングなどにより、参加者に対して、本催しの受講前後の意識の変化を確認します。	
スケジュール	時期	具体的な取組
	5月	協力いただく小学校や幼稚園などと調整
	12月	チラシ作成、配布
	1月	講座 2か所（開催時期は小学校、幼稚園の年間スケジュールに合わせる為、変更の可能性あり）
	2月	報告書作成
役割分担の想定	<p>（団体の役割）</p> <p>関係各所との打合せ、参加者募集のチラシ作成、参加者の申し込み受付 子どもの防災開催時の会場準備及び運営</p>	
	<p>（市の役割）</p>	
他団体との連携	<p>アレルギー児を持つサークルどんどろ</p> <p>アトピッ子サークル ピコピコ</p> <p>みんなで地域づくりセンター（協力いただける小学校、幼稚園の紹介）</p>	
期待される成果	<p>（地域全体の効果）</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども防災を行うことにより、一般市民の方に防災の意識づけをすることが出来る。 災害弱者を通してアレルギーに対する理解に繋がります。 <p>（アレルギーの患者への効果）</p> <ul style="list-style-type: none"> 食物アレルギー対応の防災備蓄品を使った簡単クッキングの紹介など 	

	<p>を行うことにより、子どもの参加も見込まれます。アレルギーのある子は一般的な食べ物が絡んだイベントには参加するのが難しいですが、参加することが出来ます。</p> <ul style="list-style-type: none">・チラシ配布などを通じ当団体のことを知っていただくことで、その後の相談をさくらそうの「ノンアレカフェ」で継続して受けることに繋がります。 <p>（活動の発展）</p> <ul style="list-style-type: none">・より深くアレルギーのことを学びたいと考えた方は当団体の事業であるアレルギー大学の受講を案内する。・さくらそうの「ノンアレカフェ」顧客拡大。
--	--

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあっては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。